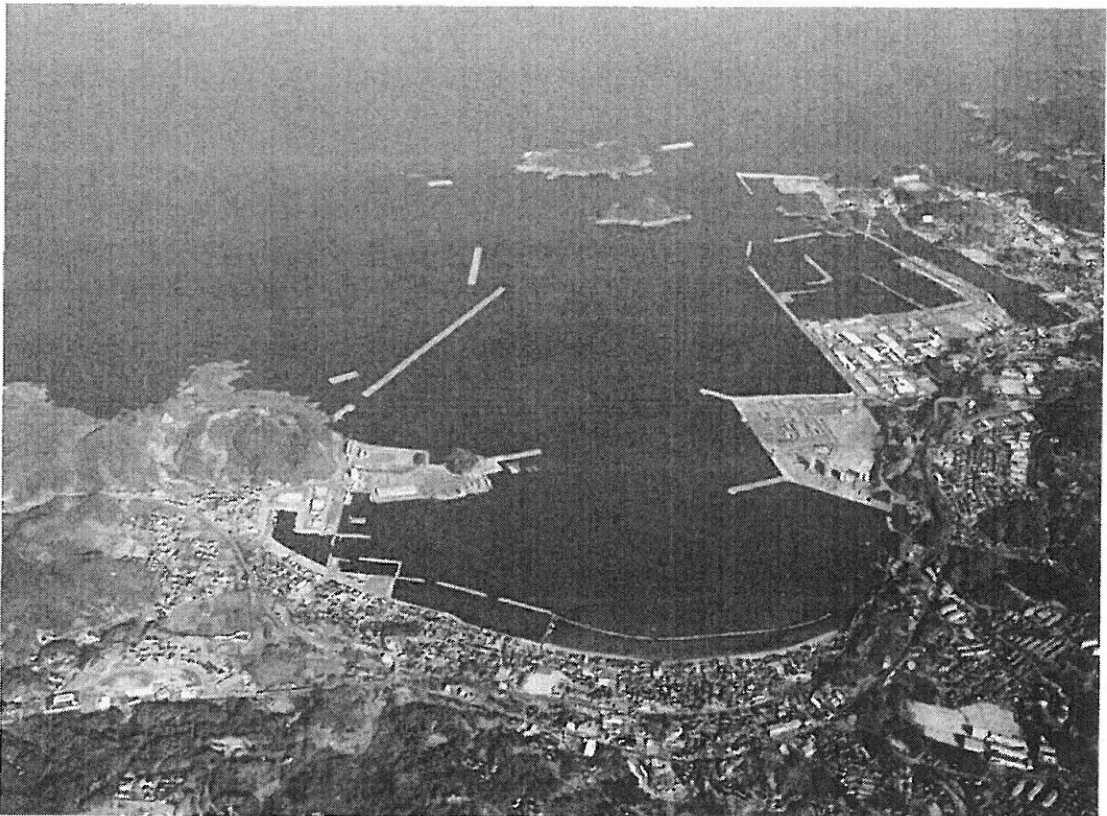


浜田市の概況



重点港湾 浜田港・特定第3種漁港 浜田漁港

(平成26年7月)

目次

1 市勢	頁
(1) 概況 -----	1
(2) 沿革 -----	1
(3) 浜田市の変遷 -----	2
(4) 位置 -----	3
(5) 市章 -----	3
(6) 憲章・宣言など -----	3
(7) 市の花、木、魚 -----	3
2 人口	
(1) 国勢調査からみる30年の人口推移 -----	4
(2) 住民基本台帳登録数からみる人口の推移 -----	5
3 産業	
(1) 水産業 -----	6
(2) 浜田港の活用 -----	7
(3) 農業 -----	8
(4) 商業 -----	9
(5) 工業 -----	9
4 浜田自動車道等の通行量の推移	
(1) 浜田自動車道通行量の推移 -----	10
(2) 浜田自動車道・金城スマートIC通行量の推移 -----	10
(3) 山陰道(江津道路)通行量の推移 -----	11
5 観光客の状況	
(1) 浜田市の観光入込客の推移 -----	12
(2) 各施設の状況 -----	12
6 教育関係の状況	
(1) 主な施設の利用状況 -----	18
(2) 高校生の就職先の推移 -----	19
(3) 島根県立大学の状況 -----	20
(4) リハビリテーションカレッジ島根の状況 -----	21
7 浜田市の財政状況	
(1) 平成26年度当初予算の概要 -----	22
(2) 市民1人当たりの歳出状況 -----	23
8 浜田市における主要プロジェクト	
(1) 最近実施した主要プロジェクト -----	24
(2) 今後の主要プロジェクト -----	24

1 市 勢

(1) 概 況

浜田市は、島根県西部の中央に位置し、県庁所在地である松江市からは 124 km、山口市からは 121 km、また、山陽側の広島市から 107 km の位置にあります。

平成 17 年 10 月 1 日に、旧浜田市と旧那賀郡の 3 町 1 村(金城町、旭町、弥栄村、三隅町)が合併し、当市独自の「浜田那賀方式自治区制度」のもとに、新浜田市が誕生し、県下で 3 番目の人口を有する市となりました。合併により市域は、面積が 689.60 km²(東西 46.4 km、南北 28.1 km)となり、北部は 55 km に及ぶリアス式海岸が占め、東部は江津市、西部は益田市に、南部は広島県北広島町に隣接しています。

地勢は、市の大部分が丘陵地や山地で、中国山地が日本海まで迫り、また、切り立ったリアス式地形と砂丘海岸の織り成す海岸線は、優れた自然景観と天然の良港をもたらしています。市内には、浜田川、周布川、三隅川等の主要河川が流れており、水資源に恵まれ、河川の下流域には平地を形成し、市街地や農地が展開しています。豊かな自然を有し、多面的機能を持つ中山間地域に恵まれ、環境の保全や地下水の涵養等に大きな役割を果たしています。

気候は、山間部では積雪の多い地域がありますが、県内他地域と比較して平均気温は高く、豊かな四季と温暖な気候に恵まれた住みよい環境にあります。

(2) 沿 革

浜田の名の起こりは「浜」を拓き、「田」にしたことによると伝承されています。

古代には、石見国庁、国分寺などが置かれ、広く石見地方を統括するなど、政治、経済、文化の拠点として栄え、中世には、福屋氏、周布氏、三隅氏などの豪族が支配し、周布氏や三隅氏は朝鮮王朝とも交易を行いました。

江戸時代、海岸部には浜田藩(5.5 万石)の城下町が置かれ、山間部には津和野藩(4.1 万石)領がありました。

明治 3 年(1870 年)、浜田県の県庁所在地となり石見の中核都市としての土台が築かれました。明治 9 年(1876 年)には島根県と合併し、那賀郡役所が置かれるとともに、港の整備や山間部の道路整備などの近代化が図られてきました。

大正から昭和にかけては、鉄道の敷設や浜田漁港の整備などが進められ、重要港湾浜田港及び特定第三種漁港浜田漁港を有する日本海有数の港町となるなど、陸海交通の要衝として発展してきました。

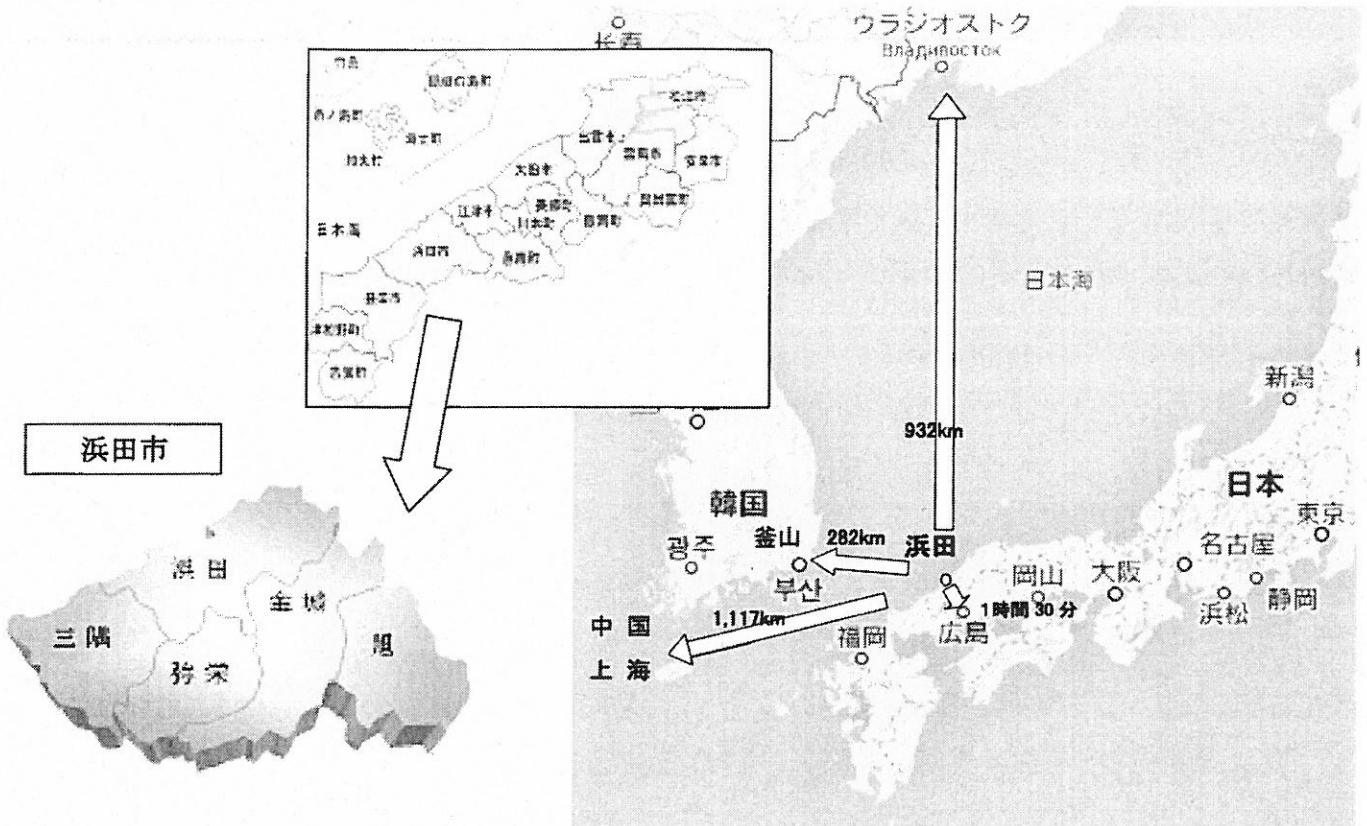
平成に入り、中国横断自動車道広島浜田線の開通、重要港湾三隅港の開港や中国電力三隅火力発電所の運転開始、韓国釜山港との国際定期コンテナ航路の開設などが進められ、環日本海地域における陸海の交通、物流拠点としての位置付けが高まっています。

また、地域の知的財産として、島根県立大学やリハビリテーションカレッジ島根が開学し、公開講座やフィールドワークなどを通じて地域・市民との交流が進んでいます。

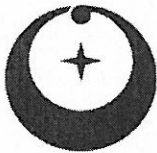
合併後には、浜田医療センターの移転改築、島根あさひ社会復帰促進センターの建設やケーブルテレビ網の整備など主要事業をはじめ、新浜田駅舎の建設や大規模農業団地「新開団地」の整備、石州半紙のユネスコ無形文化遺産への登録や浜田港の重点港湾選定など、市政の発展に向けた様々な取り組みが着実に進められてきました。

今後も、島根県西部の中核都市として更なる飛躍を目指し、本市の将来像「青い海・緑の大地・人が輝き文化のかおるまち」のもと、市民がいきいきと輝き、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

(4) 位置



(5) 市章 (H18. 2. 23 制定)

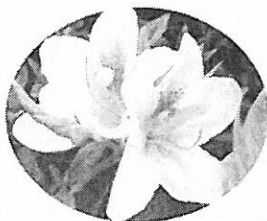


波頭の図案が「浜」を、中央の十字星は輝く未来を表わし、同時に全体として里山にある「田」の文字を表徴。

(6) 憲章・宣言など ※ () 内は制定日

- 市民憲章 (H18. 10. 1)、浜田市民歌 (H18. 10. 1)、高齢者憲章 (H20. 3. 21)
- 核兵器廃絶平和都市宣言 (H18. 6. 21)、スポーツ都市宣言 (H18. 10. 1)、
- 人権尊重都市宣言 (H20. 6. 25)、市民防災の日「7月23日」(H18. 6. 21)、
- いのちと安全安心の日「10月26日」(H22. 9. 22)

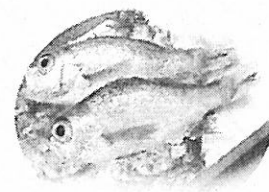
(7) 市の花、木、魚 (H21. 10. 1 制定)



市の花「つつじ」



市の木「さくら」



市の魚「のどぐろ」

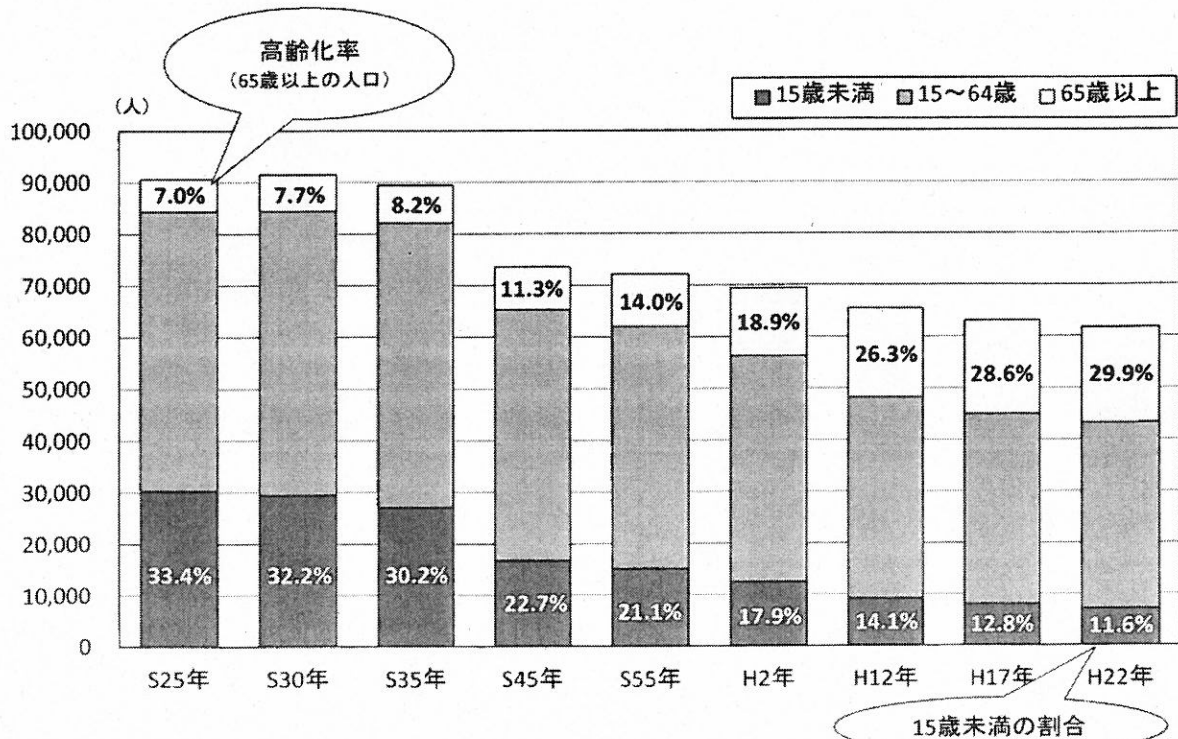
2 人 口

(1) 国勢調査からみる30年の人口推移

(単位:人)

		昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和45年	昭和55年	平成2年	平成12年	平成17年	平成22年
浜田	人口総数	52,827	55,511	54,491	49,407	50,799	49,135	47,187	45,910	43,905
	15歳未満	17,210	17,115	15,767	11,468	11,308	9,075	6,939	6,188	5,501
	65歳以上	3,378	3,864	3,980	4,728	6,100	8,206	11,061	11,971	12,431
	世帯数	-	-	13,420	14,387	16,029	16,587	18,155	18,554	18,584
金城	人口総数	9,713	9,483	8,231	5,628	5,329	5,666	5,216	4,976	4,622
	15歳未満	3,350	3,266	2,699	1,242	1,011	1,048	707	594	525
	65歳以上	729	832	758	775	879	1,244	1,639	1,647	1,576
	世帯数	-	-	1,805	1,526	1,524	1,659	1,663	1,685	1,704
旭	人口総数	6,401	6,522	7,051	4,832	4,058	3,840	3,198	2,978	4,888
	15歳未満	2,165	2,214	2,342	946	674	546	363	274	320
	65歳以上	505	578	687	753	882	1,065	1,312	1,293	1,287
	世帯数	-	-	1,617	1,355	1,263	1,385	1,170	1,107	1,314
弥栄	人口総数	5,101	5,008	5,288	2,853	2,179	1,869	1,789	1,612	1,494
	15歳未満	1,710	1,660	1,618	670	357	245	206	186	140
	65歳以上	417	446	475	433	463	556	723	680	683
	世帯数	-	-	1,176	825	720	648	708	634	591
三隅	人口総数	16,587	14,971	14,411	10,872	9,765	8,901	8,073	7,570	6,804
	15歳未満	5,800	5,184	4,616	2,396	1,840	1,530	991	811	658
	65歳以上	1,271	1,291	1,409	1,606	1,753	2,033	2,502	2,470	2,473
	世帯数	-	-	3,244	2,947	2,904	2,855	3,028	3,043	2,779
合計	人口総数	90,629	91,495	89,472	73,592	72,130	69,411	65,463	63,046	61,713
	15歳未満	30,235	29,439	27,042	16,722	15,190	12,444	9,206	8,053	7,144
	65歳以上	6,300	7,011	7,309	8,295	10,077	13,104	17,237	18,061	18,450
	世帯数	-	-	21,262	21,040	22,440	23,134	24,724	25,023	24,972

(調査期日10月1日)



(2) 住民基本台帳登録数からみる人口の推移

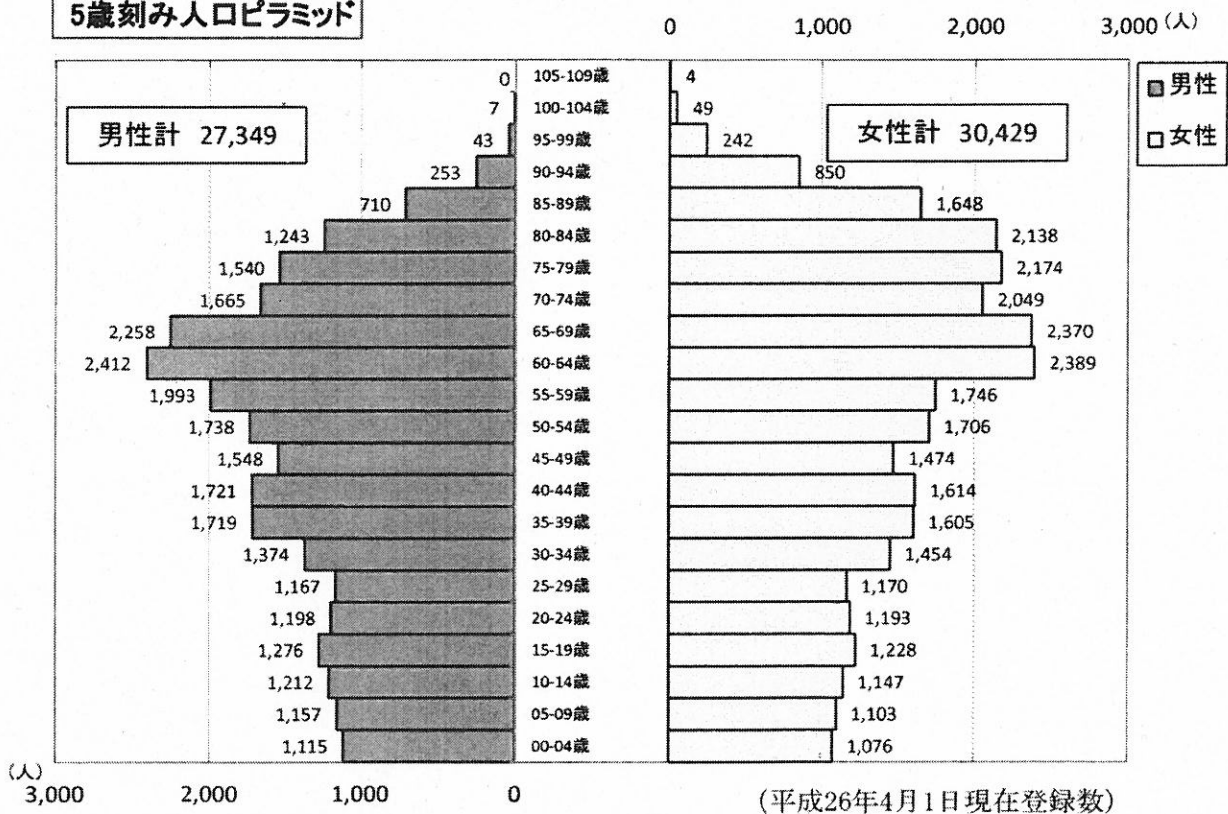
(単位:人)

	昭和45年	昭和55年	平成2年	平成12年	平成17年	平成22年	平成25年	平成26年
人口	74,366	72,391	69,396	65,296	62,699	59,476	57,885	57,153
外国人登録者	286	237	228	429	653	704	638	625
計	74,652	72,628	69,624	65,725	63,352	60,180	58,523	57,778
世帯数	21,071	22,234	23,564	24,906	25,401	26,507	26,783	26,772

※平成17年以前の数値は、旧市町村の合計値

(4月1日現在登録数)

5歳刻み人口ピラミッド



本市の人口は昭和35年以降、若年層を中心に人口流出が続き年々減少しています。特に、昭和30年代後半から始まった高度経済成長期に、大企業及び工場等が集積する京阪神工業地帯を中心に人口の流出が進み、昭和35年から平成22年までの50年間で27,759人(31%)減少しています。

本市においては過疎化に加え、少子化、高齢化が急速に進行していることがうかがえます。過疎化の要因としては、自然的要因のほか、雇用機会の不足、生活環境整備の遅れなどが考えられます。